

219 チヌかご〈北松編〉

調査地 大島村の山

1) 漁具

(1) 見取図

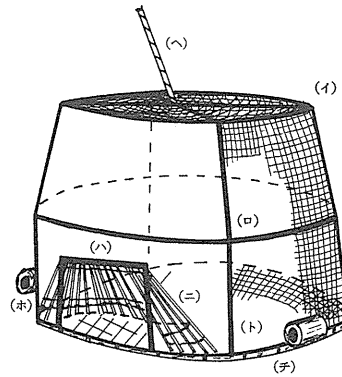


図219 一般構成

(2) 漁具仕様

表219 仕様表

符号	名称	材質	規格・寸法	備考
(イ)	かご枠	鉄筋	径6mm	接合部針金で結ぶ
(ロ)	金網	鉄	4cm目	上部径50cm×高さ50cm×底部径60cm
(ハ)	入口枠	鉄筋	縦10cm×横20cm×径6mm	
(ニ)	もどらず	竹ヒゴ	径2mm, 27~28本	
(ホ)	オモリ	陶器	空中重量250g, 3個	
(ヘ)	浮標綱	ポリエチレン	6mm, 水深の1.2倍	
(ト)	底	割竹	幅2cm	割竹で編む
(フ)	底枠	〃	幅2cm径60cm	

(3) 「もどらず」の作り方

竹ひごをクレモナ糸で編んだ箕子様の1端を図219のように入口枠の上部に固定する。他端は竹ひご間隔を4~5cmにして、割竹で編んだかご底に円弧をかくように拡げ、かご底ともどらずの角度を60°位にする。

2) 使用漁船および乗組員

5トン未満, 1人。

3) 漁期・漁場

湾内で夏に行う。

4) 漁獲物など

クロダイ(チヌ)や雑魚。

副業的に行われていて、専門者はいない。

220 イカかご〈北松編〉

調査地 松浦市今福

1) 漁具

(1) 見取図

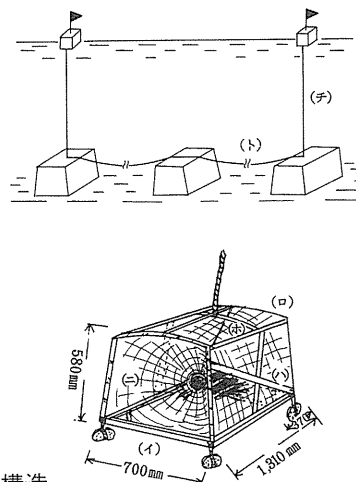


図220 一般構成およびかご構造

(2) 漁具仕様

表220 仕様表

符号	名称	材質	規格・寸法	備考
(イ)	底 枠	木	3 cm角	
(ロ)	上 部 枠	竹	3 cm幅	割竹
(ハ)	網	ポリ	5～6 節	
(ニ)	漏 斗 枠	針金	直径14cm	天井から31cm, 底から13cmになるように固定
(ホ)	漏 斗 張 網	銅線	74cm 1 本, 45cm 2 本	長い方は漏斗枠と後面天頂部, 他の 2 本は底部両側枠で張る
(ヘ)	ドンブリ	自然石	20cm位	かご底部 4 隅につける
(ト)	取 付 網	クレモナ	9 mm 25m	北洋はえ縄のあがり網, かご間隔25m, 1 連 3 かご
(チ)	浮 標 網	〃	〃 水深×1.2	

2) 漁 法

かご底部中央にツゲの枝を縛り, 3 かごを 1 連として, 10 連を投入する。翌日揚かごして漁獲物を取り出し再び投かごする。ツゲの葉や小枝が落ちてしまうとイカの入りが悪いので, 新しい枝に取り替えるが, イカの卵が付着している時はそのまま使用する。

3) 使用漁船および乗組員

使用漁船は 5 トン未満で, 乗組員は 1～2 名である。

4) 漁期・漁場

漁期は 1 月 10 日から 3 月末までで, 漁場は水深 15～20m の瀬淵の泥である。

5) 漁獲物

コウイカ, タコ。多い時には 1 かごにイカが 6 尾ぐらい入ることもある。

221 アナゴかご〈平成13年〉

調査地 鷹島町日比

沿革 昔からたこかご漁でアナゴが獲れていたため, 鷹島周辺でアナゴがいることは分かっていたが, アナゴを対象とした能率漁法は知られていなかった。しかし, 昭和 55 年 (1980 年) 頃生月町周辺で行われていた筒かごを使ったはえ縄方式が伝わり, 漁獲量が飛躍的に増大した。最近ではアナゴの漁獲量が大幅に減少してきたため, 革加工製品の原料として韓国で需要の多いメクラウナギを漁獲対象として操業している。

平成 13 年 (2001 年) 現在, 鷹島町日比地区で 3 統が着業しており, 伊万里湾周辺では松浦市星鹿, 青島などで行われている。

1) 漁 具

(1) 見取図および一般構成

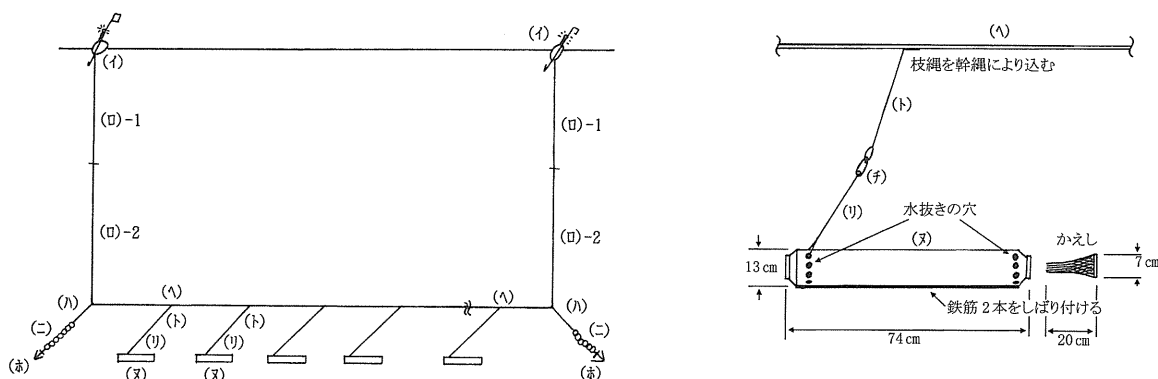


図221 一般構成

(2) 漁具仕様

表221 仕様表(1連分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(イ)	浮標	発泡スチロール	旗付き竹竿, 点滅灯付き	2	
(ロ)-1	浮標綱	鉛ロープ	クレモナと同程度の比重 水深×0.5	2	浮標綱の上部に使用する。
(ロ)-2	浮標綱	ハイゼックス	9mm 水深×1~1.5	2	浮標綱の下部に使用する。
(ハ)	錨綱	ハイゼックス	9mm 2m	2	
(ニ)	チェーン	鉄	20kg	2	錨綱とチェーンの間に入れる。
(ホ)	錨	鉄	10kg	2	
(ヘ)	幹縄	ハイゼックス	8mm 1700m	1	枝縄の間隔は16.5~18mとする。
(ト)	枝縄 1	クレポリ	7mm 2.25m	100	幹縄へは縫り込んで結着する。かご側はさつまで輪にする。
(チ)	ブランチハンガー	ステンレス		100	かご側の枝縄2に取り付け、投縄の時に枝縄1の輪につなげる。
(リ)	枝縄 2	クレポリ	7mm 0.3~0.4m	100	ブランチハンガーとかごをつなぐ。
(ヌ)	筒かご	合成樹脂	φ13cm×74cm 両端に入り口 かえし: φ7cm×20cm	100	転がり防止のため、下側に3分程度の鉄筋2本をロープで結び付けておく。

2) 漁法

1回の操業には1連100かごを2連使用する。餌はサバの切り身である。船には船首デッキの左側にアナゴかごを立てて入れるための枠を取り付けてあり、幹縄から外したかごを立てて入れておく。

夕方出港し、漁場に着いたら底びき網の操業状況を確認する。底びき網漁業と漁場が重なっているため、底びき網の操業が多い時は現場で判断して操業しないこともある。操業することになれば、船首側から縄を繰り出しながらかごに餌を入れつつ枝にかごを取り付けていく。操業が出港前に確実にできそうなときは、出港前にかごに餌を入れておき投縄中は枝にかごを取り付けるだけにしておく。1連投縄するのに1時間~1時間半を要し、これを2連行う。

揚縄は投縄終了から短いときで2時間、長いときで朝まで待つてからとりかかる。揚縄はラインホーラーで幹縄を手繰りながら、枝からかごを取り外していき、アナゴが入っていたらかごから活け間に移す。

3) 使用漁船および乗組員

7.9トン, 1人乗組み。

4) 漁期・漁場

漁期は1~4月, 盛漁期は1~2月で, 漁場は地先海面と伊万里湾内である。

5) 漁獲物

以前はアナゴ主体だったが, 現在ではメクラウナギ主体。

6) その他

アナゴかごのシーズン以外は, 5月からタコかご漁, 9月からフグかご漁を操業している。

222 タコかご <平成13年>

調査地 松浦市今福

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

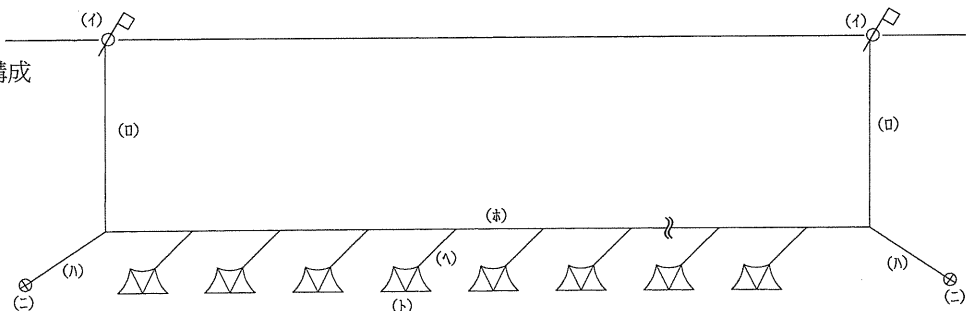


図222-1 操業見取図

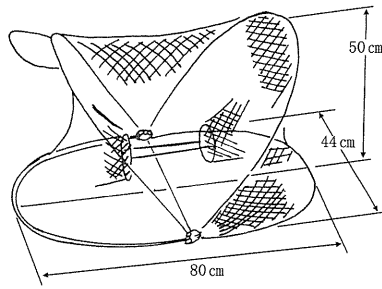


図222-2 タコかご

(2) 漁具仕様

表222 仕様表(1連分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(イ)	浮標	発泡スチロール	旗竿付き	2	
(ロ)	浮標網	ポリ	9 mm 水深が20~25mの場合水深+4~5m	2	水深が深いところでは水深×1.5とする。
(ハ)	碇網		1.5m	2	
(ニ)	碇	自然石	3 kg程度	2	
(ホ)	幹縄	ポリ	9 mm 773m	1	
(ヘ)	枝縄	ポリ	6 mm 1.0m	50	枝間隔15m
(ト)	かご 骨網	鉄 ナイロンテグス	市販品 H44cm×W50cm×L80cm 入り口径φ11cm φ6mmナイロン被覆鉄線 16号13節黒色樹脂塗装	50	

2) 漁法

操業には1連50かごを2連使用する。餌は冷凍サバ、冷凍イワシを使用する。

かごの投入は午前中に行う。風を右舷から受けるように操船しつつ、船首から投縄する。かごの回収は1日おき程度で行い、ラインホーラーで揚縄する。

3) 使用漁船および乗組員

5トン未満、1人乗組み。

4) 漁期・漁場

漁期は6~11月上旬、盛漁期は夏季で、水深10~20mの地先海域が漁場となる。

5) 漁獲物

タコ、カサゴ、メバル、カニ、クサフグ等。

223 雑魚かご<北松編>

調査地 大島村大根坂

1) 漁具

(1) 見取図

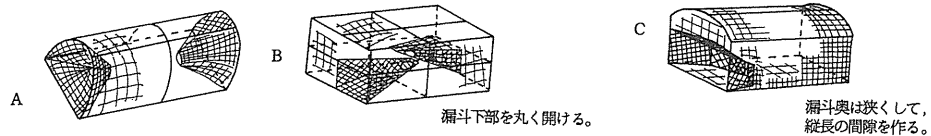


図223 一般構成

(2) 漁具仕様

表223 仕様表

名称	材質	規格・寸法
枠	鉄筋	径9mm, 幅71cm×高さ60cm×長さ120cm
網	テトロンラッセル	11節
浮標網	ポリエチレン	径4~6mm, 長さは水深の1.2倍

2) 漁法

網袋にサバ・イワシなどの切身を入れてかご内に吊し、各かごとくに浮標をつけて夕刻に投かご、翌朝揚かごする。

3) 使用漁船および乗組員

5トン未満の船を使用する。他漁の合間に試験的に2～3かごを使用するだけなので1人で行っている。

4) 漁期・漁場

周年にわたって試験操作を行っている段階である。漁場水深は5～20mくらいである。

5) 漁獲物など

メバル、メジナやその他の雑魚類。

昭和56年（1981年）当時各種のかごを試作してかご型の研究段階であってまだ本格的な操作は行われていなかった。

224 雑魚かご〈平成13年〉

調査地 松浦市今福

沿革 平成13年（2001年）現在、漁業として営まれておらず、おかず捕り程度に行われている。

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

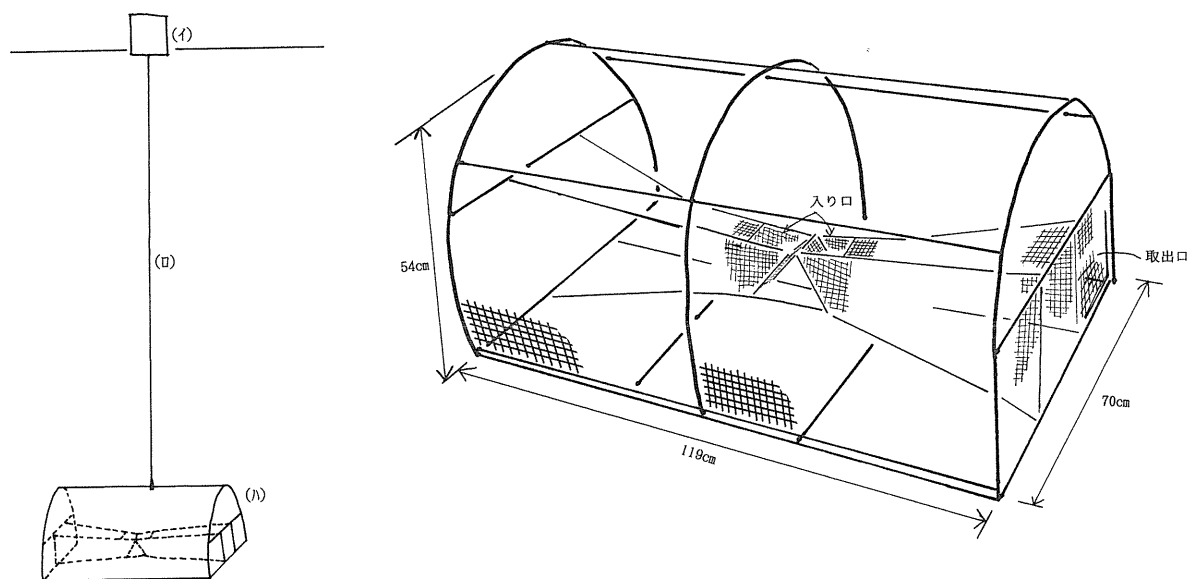


図224 一般構成

(2) 漁具仕様

表224 仕様表（1セット分）

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(イ)	浮標	発泡スチロール		1	
(ロ)	浮標網	ポリ又はクレモナ	9mm 水深の1.5倍	1	
(ハ)	雑魚かご 骨網	鉄 ナイロンテグス	H54cm×W70cm×L119cm φ9mm黒色樹脂塗装 16号黒色樹脂塗装目合10節 蛙叉を角目様にして利用	1	既製品

2) 漁法

かごははえ縄式でなく、浮標網と浮標を付けたかごを1個ずつ、3～5個設置する。餌は入れず、イカ対象ならツゲの柴、雑魚対象なら適当な柴をつける。

かごを前もって入れておき3日後程度に揚げる。

3) 使用漁船および乗組員

5トン未満、1人乗組み。

4) 漁期・漁場

漁期は周年で、盛漁期は梅雨時である。
 漁場は共同漁業権内の地先の瀬または瀬際である。

5) 漁獲物

メジナ、カサゴ、メバル、タコなどが漁獲される。漁獲物は自家消費する。
 網が汚れた時、雑食性の魚がよく入る。

6) その他

かごは漁連で販売している既製品で定価9,500円。

225 雑魚かご〈平成13年〉

調査地 平戸市川内

沿革 平成13年(2001年)現在、平戸市中野地区で4統着業。

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

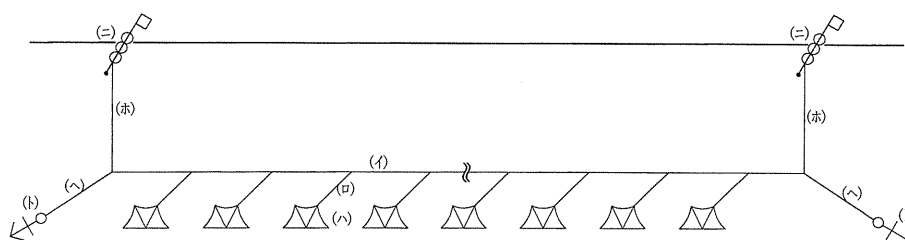


図225-1 一般構成

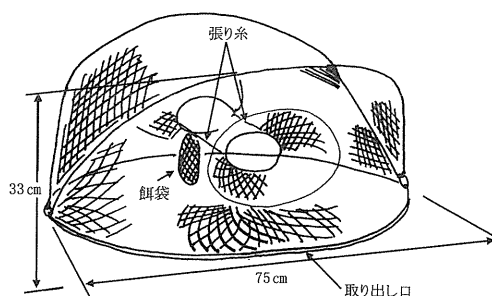


図225-2 かご

(2) 漁具仕様

表225 仕様表(1連分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(1)	幹 縄	クレポリ	7~8mm 465m	1	枝縄間隔15m
(2)	枝 縄	クレポリ	5mm 2m	30	
(5)	かご		既製品	30	
	(雑魚用)	鉄, ナイロン, ポリ	かごサイズ 底面φ75cm×H33cm 入口 H11cm×W13.5cmの楕円形		骨:樹脂被覆鉄線φ6mm, 網(上部):ナイロンテグス(黒色)10号13.5節, 網(底部):ポリ(赤色)12~15本10節
	(イカ用)	鉄, ナイロン, ポリ	かごサイズ 底面φ108cm×H47cm 入口 H15cm×W16cmの楕円形		骨:亜鉛メッキ鉄筋φ7~9mm, 網(上部):ナイロンテグス(黒色)10号12節, 網(底部):ポリ(赤色)15本12節
(3)	浮 標	発泡スチロール	中通しタイプ2~3個, 下に錘(自然石)をつけた旗竿で串刺しにしたもの	2	

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(ハ)	浮標網	クレポリ	5 mm 水深×1.5	2	
(ヘ)	錨網	クレポリ	5 mm 2 m	2	
(ト)	錨	鉄	3 kg程度	2	

2) 漁法

操業には1連30かごを3連使用する。

餌としてサバの切り身を入れ、南北方向に3列平行に敷設する。夏は1～2日おき、冬は1週間おきに午前6時ごろから1～2時間ほどかけて漁具をあげる。

漁場は魚の入り具合で同じ場所にするか、場所を変えるか決める。

3) 使用漁船および乗組員

5トン未満、2人乗り。

4) 漁期・漁場

漁期は周年で、盛漁期の7～9月はマダコが漁獲物の8割を占める。10～11月はフグが多く、網を破られるため操業しないことが多い。

漁場は共同漁業権内の水深20～50mの砂泥地～瀬である。

5) 漁獲物

マダコ (6～9月), オコゼ (4～5月), コウイカ (12～翌年5月), カサゴ少々。

226 コウイカかご〈平成13年〉

調査地 西海町面高

沿革 戦前から操業されており、戦後盛んになってきた。平成13年(2001年), 12～13統着業。

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

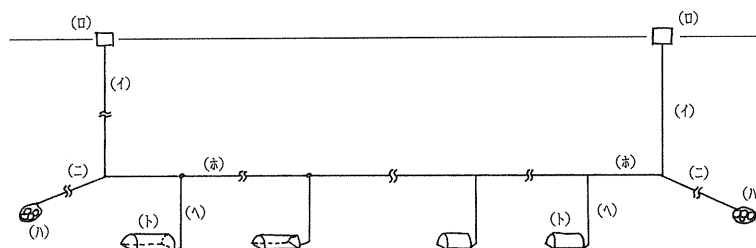


図226-1 操業見取図

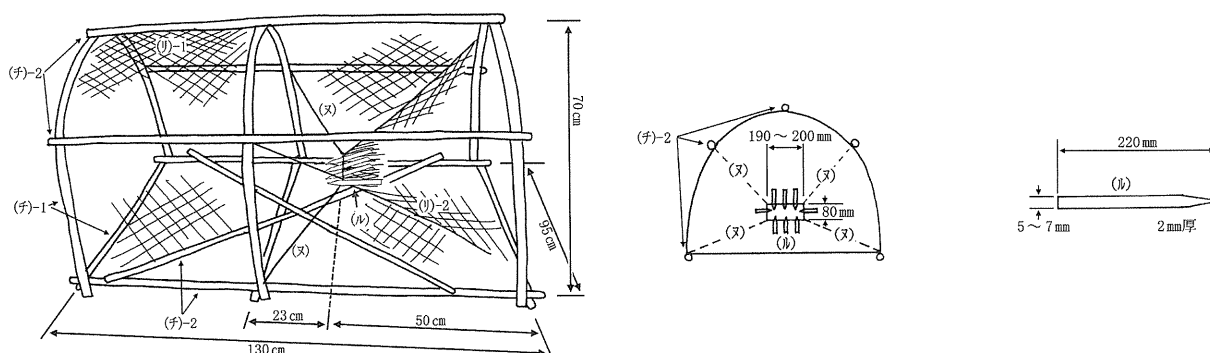


図226-2 かご

(2) 漁具仕様

表226 仕様表 (1連分, 1操業に1連を使用)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(イ)	浮標綱	クレポリ	9mm 水深+5m	2	
(ロ)	浮標	発泡スチロール		2	
(ハ)	碇	自然石	1個20~30kgを5~6個 100~150kg	2	ポリ網に包んでまとめる。
(ニ)	碇綱	クレポリ	9mm 75~90m	2	
(ホ)	幹縄	PP又はクレポリ	12~14mm 鉛入り 465~618m	1	両端は7.5~9m
(ヘ)	枝縄	パイレン	4~5mm 7.5~9m	15~20	中古のマグロ縄を使用する。
(ト)	かご		自家製 L130cm×W95cm×H70cm	15~20	
(チ)-1	骨 1	竹	幅30mm 厚さ7~8mm	6	1かご分。入り口側の隅2カ所に柴を付ける。柴はツツジの枝30~40cmを4~5本束ねたものを使う。網地は掛け目75目長さ151.5mで特注
(チ)-2	骨 2	竹	丸竹 φ20~25mm 1.30m	7	
(リ)-1	網	ナイロン	12本目合80mm 50目×75目	1	
(リ)-2	網(ろうと)	ナイロン	12本目合80mm 10目×75目	1	
(ヌ)	紐	クレモナ	36本 0.42m	4	
(ル)	かえし	竹	5~7mm幅, 2mm厚の竹の棒を尖らせたもの 220mm	8	入り口は W190~200mm×H80mm

2) 漁法

漁場の広さや他漁業との操業の兼ね合いから例外はあるが、縄を潮なりに敷設するのが基本となる。漁期初めに敷設する時、固定用の錘として使うポリ網に包んだ5~6個の自然石を漁場まで船舷に吊るして運び、敷設時に取り付ける。漁具は漁期間のあいだ海中に設置したままの状態でお業し、前述の自然石は漁期が終わった時に網を破って海中に投棄する。1連のかご数も漁場の大きさに合わせて決める。

操業はおおよそ2日おきの漁協のイカの出荷(出荷時刻午後1時30分)に合わせて、午前7時半~午後12時に6連分の揚縄を行う。漁場に着いたら幹縄をラインローラーに掛け、幹縄に沿って船を移動させながら、かごを手で揚げ、漁獲物だけを取り込んだのちかごはまた海に戻す。幹縄は右舷側のラインローラーに掛けるのみの他、船尾の左舷側の「タツ」にかけ船にあげる場合もある。出荷当日に揚げきれない分は前日に揚げて、個人の生簀網に生かしておく。

イカが獲れる時期になったら、おとりの雌イカを1匹かごの中に入れておく。

3) 使用漁船および乗組員

3~4トン, 2~3人乗り。

4) 漁期・漁場

漁期は1月10日~4月30日で、盛漁期は2月末~3月中旬である。

漁場は面高湾内~白瀬周辺で水深15~50mの砂泥地である。

5) 漁獲物

主にコウイカで、3月頃まで1尾500g前後、以後小型が主体となる。漁獲量は1かご2尾程度である。

227 シャコかご<平成13年>

調査地 長与町

沿革 昭和45年(1970年)頃、真珠養殖作業の手伝いにきた諫早市飯盛の人より習う。平成13年(2001年)12~13統着業、うち9統が専業である。

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

